

名 誉 会 員 追 悼



故 名誉会員 佐藤 忠雄 君

社団法人日本鉄鋼協会名誉会員、元日本特殊鋼(株)常務取締役技術本部長佐藤忠雄殿のご逝去の報に接し謹んで哀悼の辞を申し上げます。

氏は、昭和8年に東京大学工学部冶金学科を卒業して海軍に奉職し、昭和20年運輸省鉄道技術研究所に入って鑄鍛研究室長を務め、昭和30年日本特殊鋼(株)に移り、会社が大同製鋼(株)と合併後は、昭和58年まで大同特殊鋼(株)の嘱託として活躍されました。

海軍では航空機材料の試験研究に携わり、海軍技術有功賞を2回受けられました。特に超々ジュラルミンの「重複荷重による疲労」についての研究成果は機体の疲労寿命の算定に採用され、また工学博士の学位論文にもなりました。

鉄道技術研究所では、キューボラの研究や電炉酸化精錬と生型鑄造の作業標準化などで日本鑄物協会から昭和30年に小林賞、32年に功労賞を受賞しております。

日本特殊鋼(株)と大同特殊鋼(株)においては、各種合金鋼、超合金など特殊鋼全般にわたる製造技術の進歩、品質管理と保証技術の確率に顕著な貢献を果たされました。

このほか、規格の制定や標準化への寄与により、昭和47年に通商産業大臣表彰、昭和56年に勲四等瑞宝章を受けられました。

本会の関連では、理事4期、評議員10期を務められましたが、その間終戦直後の本会の困難な時期から拡大強化に移行する昭和40年まで編集委員あるいは委員長として会誌の編集発行や講演大会の開催に精魂を傾けられ、欧文誌の創刊や討論会の創設など編集事業の基礎を確立されました。引き続き41年から59年までの永きにわたり新設された出版分科会をリードして「鉄鋼便覧」、「鋼の熱処理」、「鉄鋼製造法」をはじめとする多数の有益な図書を企画出版されました。いずれも当時鉄鋼界で最も渴望されていたもので、研究者や技術者の血となり肉となつてわが国の鉄鋼業の興隆発展に大きく貢献しております。一連のご功績に対し、本会は昭和30年に協会事業功労賞、32年に渡辺三郎賞を贈り、昭和58年には名誉会員に推挙しております。

氏が鉄鋼界と本会の発展に尽くされた絶大なご業績を偲び、会員一同心から哀悼の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成11年3月

社団法人日本鉄鋼協会 会長 岸 輝雄